

事務事業	73	都市計画道路の整備（駅街路10号線）					
章	3	安全で快適な、みどりのあるまち					
大項目	01	計画的なまちづくりの展開					
施策	01	適切な都市構造の実現					
<b>事業内容</b>							
目的	新宿駅東口広場と新南口付近をつなぐ都市計画道路新宿駅付近街路第10号線を整備し、駅周辺の交通アクセス性・歩行回遊性の強化及び駅前景観の向上等を図ります。						
対象・手段	東口広場から明治通りまでの330mのうち、甲州街道から明治通りまでの180m間（計画幅員15m）を都市計画事業として整備します。 街路単独事業とした場合、区が事業主体となり用地買収、街路築造を行うこととなります。						
<b>成果（事業が意図する成果）</b>							
駅前交通環境の向上を図るとともに、沿道土地の高度利用促進等駅周辺の活性化が図られます。							
<b>事業成果指標</b>							
指標名		定義			目標水準		
道路完成率		施行延長 / 総延長			(平成27年度) 100% の水準達成		
用地買収率		買収面積 / 買収予定面積			(平成27年度) 100% の水準達成		
					( ) 年度に ( ) の水準達成		
<b>成果の達成状況</b>							
		単 位	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	備 考
事業成果指標	目標値 1	%	0.00	0.00	0.00	0.00	
	実績 1	%	0.00	0.00	0.00	0.00	
	= /	%	0.00	0.00	0.00	0.00	
	目標値 2	%	0.00	0.00	0.00	0.00	
	実績 2	%	0.00	0.00	0.00	0.00	
	= /	%	0.00	0.00	0.00	0.00	
	目標値 3		0.00	0.00	0.00	0.00	
	実績 3		0.00	0.00	0.00	0.00	
	= /	%	0.00	0.00	0.00	0.00	
<b>事業の実施内容</b>							
平成17年度	周辺事業との調整及び事業化の検討						
平成18年度	周辺事業との調整及び事業化の検討						

部名称		環境土木部		課名称		道とみどりの課	
		単 位	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	備 考
トータルコスト	事業費	千円	0	0	0	0	
	人件費	千円	0	0	0	0	
	事務費	千円	0	0	0	0	
	減価償却費等	千円	0	0	0	0	
	総計 = + + +	千円	0	0	0	0	
	受益者負担	千円	0	0	0	0	
	純計 = -	千円	0	0	0	0	
	受益者負担率 /	%	0.00	0.00	0.00	0.00	
財源内訳	一般財源 = -	千円	0	0	0	0	
	特定財源		0	0	0	0	
	一般財源投入率 /	%	0.00	0.00	0.00	0.00	
職員	常勤職員	人	0.00	0.00	0.00	0.00	
	非常勤職員		0.00	0.00	0.00	0.00	
<b>事業に関する検討課題</b>							
<p>昭和21年の都市計画決定から長期間経過していることと併せ、平成16年度から平成27年度にかけて優先的に整備すべき都市計画道路（第3次前期事業化計画路線）に選定されており、早期着手を目指します。甲州街道の架け替えを含む南口基盤整備事業や副都心線等、周辺の開発に合わせて事業計画をたてる必要があります。</p> <p>地価の上昇傾向により、用地取得費が年々上昇しています。</p>							
評価基準に基づく評価と理由	達成度	2	現段階では、事業化の時期等は未確定ですが、情報収集に努めています。				
	効率性	2	事業化した場合、多大な財政負担を強いることとなります。				
	実施の成果	2	現段階で成果は上がっていませんが、南口、東口を含めた駅周辺の将来像の中での位置づけを再整理する必要があります。				
	行政の関与	3	現段階では、都市計画決定権者である区に主体性があります。				
	妥当性	2	周辺の開発の動向を視野に入れつつ事業化の検討をする必要があります。				
	施策寄与度	2	周辺の開発の動向を視野に入れつつ、早期完了が求められています。				
総合評価	沿道からは早期事業化の要請を受けていますが、新宿駅周辺整備の将来像を踏まえつつ、南口基盤整備事業の進捗や新宿四丁目地区の開発の動向も視野に入れ事業化の検討を進めています。						D 過年度評価
							17年度 D 16年度 B 15年度 14年度
改革方針	施工中の甲州街道の橋りょう架け替えと併せ、新宿駅南口の基盤整備が18年度着手されました。周辺の基盤整備が動き出したことから、各事業者と事業内容及びスケジュールを調整して事業計画を立てていきます。						方向性
							1  現状のまま継続